



4/8(金)~12(金) 福永副総師長(高松協同病院)が、石川民医連で震災支援活動

民医連は1つ。福岡、滋賀、千葉など全国から駆け付けていました。



8日は救急外来チーム(左から2人目)



9日は発熱外来担当。みんなでカルテを書いているところです



香川からの「激励フラッグ」発見

10日は被災地域訪問です。7時20分にバスで城北病院を出発。車窓からは七尾のあたりから大きく崩れた屋根にビニールシートがかかった家が増えてきました。能登の漁港や朝市、町も時が止まっているみたいでした。城北病院か2時間半で現地到着



今から訪問に出ます

友の会の方のお宅の訪問をしました。22軒を訪問し、お話ができたのは6軒ほどでした。あとは避難されているようです。



訪問では、91才の独居の女性の娘さんが、珠洲市の自宅は住めない状態なので輪島に入り、母を東京の姉の所に送ってから輪島を家の番をされているとのこと。母は輪島に帰りたがっているけど、施設の受け入れがないのもう一人暮らしは難しいのではないかと、言っていたのが印象に残りました。あと、夫婦二人暮らしの酒屋さんは、妻が今日から入院になったと教えてくれました。地震後もがんばって二人で店を開けていたそうです。貴重な体験ができ、ぜひ他の職員の皆さんにも参加してほしいと思いました

ボランティアさんがあまり支援に入っておらず、取材に来た朝日新聞の記者さんが「何でこんなことになっているの」怒っていたそうです。